

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月19日

【評価実施概要】

事業所番号	3470205042		
法人名	株式会社 ケイワイ		
事業所名	みのりグループホーム川内		
所在地 (電話番号)	広島市安佐南区川内一丁目22-55 (電話) 082-830-0005		
評価機関名	広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町1丁目6-29		
訪問調査日	平成 19年 11月 7日	評価確定日	平成19年12月13日

【情報提供票より】(19年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	5人, 非常勤 10人, 常勤換算 13.1人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独	<input checked="" type="radio"/> 新築 / 改築
建物構造	鉄筋コンクリート造り 2階建ての 1階 ~ 2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	<input checked="" type="radio"/> 180,000円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	7 名	女性	10 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	6 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	73 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	太田川病院、上原内科クリニック、いなみ歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、開所以来約三年が経過しているが、この間ホーム独自の理念の下で利用者の方が地域で暮らし続けることへの支援を継続に行っており、地域の他福祉施設と災害時などの協力体制の構築や、情報交換なども行いながら質の向上に取り組んでいることが特に目に止まった。また、地域との交流も利用者や職員が共に参加をしたり、ホームの菜園で収穫した野菜等を近隣の方に差し入れするなど地域と関わり、常日頃から良好な関係づくりに努めている。この他職員は、自己評価などを通じて現れた改善項目などについては、前向きに話し合いながら質の向上を目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価時と管理者が変わっているため、評価項目についての認識は若干異なっているように思われた。ただ、課題が沢山あるという意識はあり、一つずつ着実に問題を整理して行動されているように思います。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>施設内外の情報を収集し求め、法人や事業所で考えられること「あるべき姿」を掘り起こし、これらに向かって進んで行くことを望みます。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>この会議では、これまでは行事や事故の報告事項が主であるが、例えばボランティアの募集や研修など、もっと施設がやりたいこと、困っていることに対し外部からの声として幅広く参加者の助言を得ることも必要である。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族からの苦情は取り立てて見当たらないが、家族会の開催や、とりわけ面会の少ない家族へはコミュニケーションなどのあり方を共に考え、もっと意見を取り上げホーム全体の問題として検討するののも一つの方法である。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>施設の農作物を幼稚園に譲ったり、近隣の老人ホームと合同でイベントを開いたりするなど地域と交流を一層充実させ、また外出する機会を今以上に増やされることにより、従来からの継続のある地域づくりにホームとしての役目をされることも必要と思われる。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの住み慣れた地域での安心の出来る“我が家”としての雰囲気の中で、利用者に暮らして頂きたいという想いを込めて開設時に職員全員で作成した独自の理念である。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎週月曜の業務開始前には、施設理念の唱和を行い、ミーティングや申し送り時の際にも理念に触れ、互いに確認しあうようにしている。		理念の唱和のみでなく、具体的行動が分かり易い理念に基づく例えば「今月の目標」のようなものを策定されて、これにより行動されるのも一つの方法である。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭などには積極的に参加している。地域の幼稚園や日舞ボランティアにも来ていただいている。また、施設の畑で取れたサツマイモを近所に配ったりもしている。		公民館で活動されているサークルグループなどに積極的に呼びかけるのも必要である。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員で自己評価に取り組み、施設の良いところ・悪いところを十分把握し、これらをサービス向上のための改善事項として検討している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の状況などを報告し、意見をいただいている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設内イベントに、秋葉市長に来ていただいた。		運営会議のテーマによっては、行政担当者の参加を依頼され相談や意見を求めることも大切である。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には、暮らしぶりや健康状態・金銭管理についてはその都度報告している。また、体調変化がある際は、家族の意向を確認している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	カンファレンスの前に家族の意向や、不満・苦情について再確認し、これらを今後に反映すべく取り組んでいる。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に法人内の異動は殆ど無く、定着率も向上しており、入居者との馴染みの関係はだんだん深まっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症関連の研修へは内外を問わず参加を計画しているが、定員超過などでなかなか計画通りには実施できていないのが現状である。		経験が浅い職員も少なくないため、出来るだけ研修に参加されるとともに、研修成果が生かせるような環境づくりの検討が必要である。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の有料老人ホームやグループホームとの、行事には年間計画を策定し参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	体験入居を積極的に勧めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	掃除、洗濯物乾し、食器拭きなど一緒に行ったり、昔話を積極的にお願したりしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	日常の関わりや言動から本人の意向を把握するように努め、職員間で話し合うようにしている。家族の面会時も情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	日々の利用者や家族との関わりの中から意向は十分確認し、介護計画に反映できるようカンファレンスを行っている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	カンファレンス、モニタリングを通して見直しを行っている。状態変化有れば、随時見直ししている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じ、外出や受信時の送迎を行っている。また、協力医と夜間休日の連絡体制もとっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事前に把握している本人・家族が希望する病院を優先している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所としては現在終末期対応は考えておらず、入居希望者にはその旨理解してもらっている。ただし、本人に状態変化がある場合は、家族の意向を確認しながら対応を考えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者を人生の先輩という意識を持ち接しており、また人権やプライバシー保護に努めている。個人情報の取り扱いも最大限配慮し、職員間で意思統一を図っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、利用者の体調、生活リズムを把握し、それに沿って個々の自由なペースが保たれるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日1回利用者と同一の食事を摂り、食べ易さ、味付け等確認している。会話をしながら、ゆっくり自分のペースで楽しく食べられる様、雰囲気作りを心掛けている。自立度に応じて準備や片付けを一緒に行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	常に本人の意志に基づいた誘導に心掛け、健康状態に留意し、時間帯、好みの温度が希望通りに行えるよう心掛けている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の出来る役割を、一緒にして頂き、感謝の言葉を伝えるようにしている。また、生活歴や趣味など情報収集しレクの時間など、個々の趣味活動として取り組んだり、外出、イベントを行い、楽しみ、気晴らしの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に一人ひとりの体調や気候に留意し、出来る限り利用者の意向に沿って散歩している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は3人体制にて利用者の所在確認が出来る状況を作り、利用者の行動抑制にならない様努めている。また、出て行かれそうな時は、さりげない声掛けを行い安全に配慮している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地元の消防署、交番へ当ホームの説明や何かあった時の協力依頼をお願いしている。近所の老人ホームの消防訓練にも参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量をチェックし、一人ひとりの状態に応じた量、栄養面に配慮した食事に取り組んでいる。また、食事量が少ない時などには、食事形態を変え食べてもらえるよう工夫されているが、それでも食べられない場合はラコールを飲んでもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じてもらおうような飾りや、入居者作成のちぎり絵や、花などを置いている。また、馴染みの本等を置いて家庭的な雰囲気作りにも工夫を行っている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔の写真や馴染みのある装飾品、使い慣れた日用品を持ち込まれ、利用者の居心地のよさに配慮している。夫婦入居者には二部屋を使い分けるなどの工夫もされている。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 みのりグループホーム 川内 一階

評価年月日 平成19年11月7日 記入年月日 平成19年10月25日

記入者 管理職 氏名 井上 誠

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	住み慣れた地域での安心の出来る“家”として利用者に暮らして頂きたいという想いを込めて開設時に職員全員で作成した独自の理念である。		今後は地域密着型サービスの意味を職員全員で話し合い、地域・利用者のニーズにあった理念に作り変える事も検討していく。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎週月曜の業務開始前には施設理念の唱和を行い、ミーティング・申し送り時なども理念に触れ確認し合う様にしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	入居契約時に、入居者・家族に理念を説明している。又玄関ホールにも明示している。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩や買い物などに出た時など気軽に近所の方と挨拶を交わしたり、施設の畑で出来た野菜など、差し上げたりしている。		特に用事が無くても、気軽に来て頂ける様に交流を深める必要がある。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域のお祭り等は積極的に参加している。地元の幼稚園や日舞をされる方々がボランティアに来てくださる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の方達の見学の希望があれば、いつでも見て頂ける様にしている。又、社協に新聞の配布をし、ホームでの活動を知って頂く様、取り組んでいる。		
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を全員で取り組み、施設の良い所、悪い所を把握し、サービスの向上する為改善すべき事項等検討している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在の施設の状況等を報告し意見やアドバイスをして頂いている。		近隣のホームと合同で会議を開き、お互いを比べて問題点を挙げ、改善して行く事を検討中。
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	秋葉市長に慰問に来て頂いた以外は、市町とは連携・交流は図れていない。		今後は市町の報告・連携を担当窓口と図っていく。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	成年後見が必要な場合、管理者のみ対応し多くの職員は理解していない。		他職員も理解し対応出来る様、研修・勉強会に参加していく。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修を受けた職員は高齢者虐待防止関連法を理解しているが、多くの職員は理解できていない。ただ虐待防止・早期発見には注意を払い、努めている。		他職員も理解し対応出来る様、研修・勉強会に参加していく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	時間をとって家族等に分かり易い言葉で、丁寧に説明している。今後起こり得るリスク、その時の対応等は詳しく説明し同意を得る。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	日々、利用者の態度から、不平・不満を察する努力をし、利用者一人ひとりの希望に添える様、各ユニット毎に申し送り時・ケアカンファレンスを行う時など、話し合いを行っている。		利用者が、意見等を外部者へ表せる機会を設けていないので、機会をつくり、運営に反映させるようにしたい。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時には、暮らしぶりや健康観察、金銭管理について、家族に報告している。体調変化がある時は必ず家族の意向を確認している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ケアカンファレンスを行う前に、家族の意向やその他、不満や苦情について確認を取り、反映出来るよう心掛けている。外部者へ表す機会としては、外部評価によるアンケートを使用。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々、その日に挙がってきた、職員の意見や提案に耳を傾け、ミーティング時などには、議題として職員とともに検討し、運営に反映出来るよう心掛けている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	イベントや職員の急な休みの時など、対応出来る様、余裕を持って人材を確保しており、管理者も夜間、利用者の状況に対応出来る様待機している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>利用者、家族との信頼関係を築く為にも、馴染みの職員が対応することが大切と考えており、法人内の定期異動も無く、異動・離職がやむおえない場合も、引継ぎ面で努力している。</p>		
5 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>「認知症高齢者の理解とケアの実践研修」・「認知症介護実践者研修」に随時、交代で参加していく様計画している。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>他施設のイベントに参加し、当事業所のイベントにも招待したり、交流を図っており、他グループホームと地域運営推進会議を合同で行う計画をしている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>管理者が職員個々より、悩みや相談を受ける体制を取っている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>健康診断の実施など、職員の心身の健康を保つ為の対応をしている。又、職員がしたいと思う事は出来るだけその意向に沿う様に心掛けている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>サービス利用の相談があった場合、必ず本人に会って、心身の状態や気持ちなど確認し、安心してもらえる様な関係作りに努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談に来られた時は、今現在、家族が何に困り、事業所としてどう対応出来るか、時間を掛けて話し合いを行っている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時には本人、家族の状況を把握し、支援出来るかを検討し、出来ない様なら、地域のケアマネージャーと連携を図る。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	納得した上でのサービス利用が大切な事であるので、体験入居してもらい、普段の様子、雰囲気はどうか、考慮した上での入居が可能である。 この期間は、馴染める様家族に出来るだけ訪問してもらい安心して頂く様にしている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が全てを行うのではなく、利用者が出来る事（掃除・洗濯物干し・食器拭き等）を一緒に行ったり、昔の話を聞かせてもらうなど、学習させて頂いている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の様子等、家族に報告、相談し、職員と家族と協力して利用者を支えていく努力をしている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	疎遠になっている時には、利用者の様子を家族に報告したり、イベントがある時などは、お誘いするなど、関係が途絶えない様努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>故郷の近くにドライブに行ったり、兄弟の方の家へ顔を見に行ったりしたことがある。</p>		<p>家族に相談をし、馴染みの人に来て頂いたり、故郷へ連れて行って頂く様お願いする。今後は、ふるさと訪問など考えて行きたい。</p>
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>個別に話を聴いたり、相談に乗ったり、トラブルにならない様、気を配っている。レクリエーション時には極力参加して頂き、皆で楽しく過ごす場面作りをするなど、職員は利用者の調整役となって支援している。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>他の事業所へ移られた方の所へ、利用者と一緒に遊ぶお約束をしてあるが、まだ行けていない。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> </div>				
<p>1 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々かかわりの中で、把握に努めており、自己決定や希望の表出が困難な方は、ご家族から面会時などに情報を得るようにして、本人の意志及び立場に立った支援に努めている。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>本人に話をしたり、家族が面会に来られた時など、生活歴や趣味などを聴き、少しずつ把握に努めている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>利用者一人ひとりの生活リズムを知り、その日の行動、動作などから、本人の全体の把握に努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者には、日々のかかわりの中で意向を確認し、家族には面会時など思いや意見を聞き、介護計画に反映できる様、カンファレンスを開き、作成している。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ケアカンファレンス、モニタリングを行って、介護計画の期間に応じて、見直しを行っている。又、状態に変化があった場合は、随時見直しを行っている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人の記録は24時間随時記録している。職員の気づきや、状態変化などは詳細に記録し、職員間の情報共有を徹底している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、家族の状況に応じて、外出時送迎を行ったり、通院はほぼ施設の方で行っている。又、協力医のDrと夜間休日でも連絡体制を取っており、助言して頂ける様になっている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	社協を通じ、地域の行事の参加をし、ボランティアの方に送迎や介助の協力を得ている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	本人の希望や体調に応じて訪問利美容サービスや訪問マッサージを利用してもらっている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加され、地域や支援する為の情報交換を図っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人や家族が希望する病院を優先して受診している。特に指定が無い場合、等施設協力医療機関を利用して頂いている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	内科の協力医療機関の先生に指示や助言して頂いている。先生の方で対応出来ない時は、紹介状を頂いて診療内科を受診し、相談する体制を取っている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	内科の協力医療機関の先生が、月2回往診をして頂いており、利用者を良く知る看護職員に色々相談している。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者が入院した場合など、定期的に面会に行き、病院関係者や家族と連絡を取るなど、情報交換に努め、早期退院支援に結び付けている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>状態の変化があった場合、早い段階より、家族、かかりつけ医と話し合い、意向を確認しながら、対応方法を考慮している。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>本人や家族の意向を踏まえ、施設として状態変化が見られた場合、かかりつけ医に相談し、施設として対応出来るか、出来ないか検討し、家族に報告している。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>他の事業所に移られた場合、これまでの暮らしの継続性が損なわれない様、環境、ケア内容、注意点等、情報提供を確実にやっている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>入居者を人生の先輩という意識を持ち接しており、又、人権やプライバシー保護に努めている。個人情報の取り扱いも最大限配慮し、職員間で意思統一を図っている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者に合わせた声掛けを行い、本人の意志を尊重した支援を行っている。自己判断能力が低下された方には、本人の立場に立った代弁者としての支援に努めている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>日々、利用者の体調、生活リズムを把握し、それに沿って個々の自由なペースが保たれるように支援している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	理美容師のホームへの導入を行い、常に入居者の好み道りにしている。服装についても着脱しやすい型、素材のみにとられる事無く、利用者の好みの柄、色を重視している。		他の理美容院に行きたいと希望される方は検討していく。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎日1回利用者と同じの食事を摂り、食べ易さ、味付け等確認している。会話をしながら、ゆっくり自分のペースで楽しく食べられる様、雰囲気作りを心掛けている。自立度に応じて準備や片付けと一緒にやっている。		共同生活という事もあり一人ひとりの好みは反映出来てないが、少しでも好みの物が食べられる様検討する。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お茶の時間等、本人が望まれる飲み物を提供している。		月一回手作りおやつを作る。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を作成し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛け、トイレ誘導を行っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	常に本人の意志に基づいた誘導に心掛け、健康状態に留意し、時間帯、好みの温度が希望通りに行えるよう心掛けている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日頃より、一人ひとりの睡眠パターンの把握を行い、不眠傾向な利用者には日中の活動の工夫を行っている。又、就寝前は、温かい牛乳を飲みながらテレビを観てゆっくり過ごしてもらい、安心して眠れる様支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように, 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	利用者の出来る役割を、一緒にして頂き、感謝の言葉を伝えるようにしている。又、生活歴や趣味など情報収集しレクの時間など、個々の趣味活動として取り組んだり、外出、イベントを行い、楽しみ、気晴らしの支援をしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	月一回買い物デーを設けて、支払時は利用者に払ってもらい、おつりを受け取ってもらうなど、工夫をし買う楽しみや金銭感覚を失わない様支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	日常的に一人ひとりの体調や気候に留意し、出来る限り利用者の意向に沿って散歩している。		車椅子の利用者が多く一度に多くの方が散歩できないので、回数を増やす工夫が必要。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	家族とともに外出やお墓参りされている。又、月一回計画を立て、外出、ドライブに行き、四季折々の季節感を味わって頂いている。		外泊される事がほとんどない方も居られるので、家族と話し合いをするなど、働きかけていく。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	公衆電話を設置し、自由に電話出来る様配慮している。年賀状、暑中見舞い等を通じて本人の近況を知らせる機会を作っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	どなたが来られても笑顔でお迎えし、居心地良く暮せる様心掛け、又、家族の方が来られたら、少しでも一緒に座って話す時間を持つようにし、近況報告を常に行う。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>職員は身体拘束をしないケアを認識し、身体・精神的機能による個別の対応を図り、事故防止対策を十分に講じ環境面に工夫を行っている。</p>		
66	<p>鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>日中は3人体制にて利用者の所在確認が出来る状況を作り、利用者の行動抑制にならない様努めている。又、出て行かれそうな時は、さりげない声掛けを行い安全に配慮している。</p>		
67	<p>利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>職員は利用者の様子や、所在が見渡せる場所で、一人ひとりを把握し、又、職員同士も声掛けを行いながら、行動している。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>安全性を第一とし、注意の必要な物品のみ、施設できるように、保管・管理行っている。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>一人ひとりの身体・精神的状態から予測される危険を日頃から検討し、事故を未然に防ぐ為の工夫を行っている。又、日々のヒヤリハットを記録し事故防止に役立てている。</p>		
70	<p>急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。</p>	<p>緊急対応マニュアルを作成しており、職員に周知徹底を図っている</p>		<p>応急手当等の訓練を定期的に行う必要がある。</p>

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	地元の消防署、交番へ当ホームの説明や何かあった時の協力依頼をお願いしている。しかし本年度、避難訓練など実施していない。		他事業所の消防訓練に参加協力は行っている。今後防火管理者講習を受講し、設備の点検、避難訓練を定期的に行って行きたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	利用者一人ひとりのリスクをアセスメントし家庭に説明し、今後の事について話し合う場を設け、理解を得られる様努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	入居者担当を主として、身体的、精神的様子観察を常に行っており、少しでも食欲、顔色、様子の変化が見られた時は、バイタルチェックを行い、記録に記入している。又、スタッフ間の密な連携により、情報を共有し対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	主治医の個々の服薬指示を観察記録ファイルに綴じ、支持通り服薬支援を行っている。服薬の担当も業務分担し取り決め適切な支援が出来る様取り組んでいる。又、症状の変化、副作用のチェック等について、スタッフ全員にて情報交換を行っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	毎朝ヨーグルトを食べて頂いたり、水分補給時に牛乳を飲んでもらっている。体操や運動を取り入れるなど、自然に排便出来る様取り組み、それでも便秘になられ、3日排便が無かった時には便秘薬を服用して頂く。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後イソジン液を使用し、入居者の自立度に応じたうがい、歯磨きの支援、声掛けを行っている。就寝前は義歯を外し保管、週一回ポリデント洗浄を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できる よう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事、水分摂取量をチェックし、一人ひとりの状態に応じた量、栄養面に配慮した食事に取り組んでいる。又、食事が少ない時などには、食事形態を変え食べてもらえる様工夫しているが、それでも食べられない場合はラコールを飲んでもらっている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	必要な消毒薬等の設備機器を設置し、毎食及び、おやつ前には必ず石鹸で手洗いしてもらう等、感染対策マニュアルに沿って日々実行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の 衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	常に清潔保持に努め、手洗いをを行っている。又、冷蔵庫内の食品点検、ふきん、まな板、包丁の除菌洗浄を夜勤者が毎日行っている。		冷凍食品の保管が不十分。アイスノンと食品保存が一緒なので検討する。
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出 入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りのプランターに季節にちなんだ花を植えて、近隣の人等にも親しみやすく工夫をしている。又、玄関ホールにも季節にちなんだ花を飾り家族が入りやすい雰囲気作りに心掛けている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等) は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や 季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節を感じてもらえる様な飾りや、入居者作成のちぎり絵や、花などを置いている。又、馴染みの本等を置いて家庭的な雰囲気作りにも工夫を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにソファ、マッサージチェアを設置し、独りで過ごされたり、ゆっくりと話が出来る様な空間作りをしている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	昔の写真や馴染みのある装飾品、使い慣れた日用品を持ち込まれ、利用者の居心地のよさに配慮している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	居室には24時間換気設備を設置しており、掃除の際には必ず換気する。温度調節は利用者個々に応じて、又、外気とあまり差が出ない様こまめに調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下、トイレ、浴室に手すりを設置している。浴槽内の滑り止め防止マットも使用。物干しの高さも利用者が干しやすい高さに調整している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレに目印を付け、浴槽の出入り口にはのれんを掛け、又居室の表札のそばに好みの花を飾り、確認出来る様工夫を行っている。		
87	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭に花、畑のスペースがあり、利用者に手入れ等手伝ってもらうなど、参加し、見て、作り、食べる楽しみを味わってもらっている。ウッドデッキでは日向ぼっこをされ、外の空気や景色を楽しまれている。		裏庭の上り下り、屋上の出入り口の工夫を行い、もう少し活用していきたい。

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 みのりグループホーム 川内 二階

評価年月日 平成19年11月7日 記入年月日 平成19年10月25日

記入者 管理職 氏名 井上 誠

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	住み慣れた地域での安心の出来る“家”として利用者に暮らして頂きたいという想いを込めて開設時に職員全員で作成した独自の理念である。		今後は地域密着型サービスの意義を職員全員で話し合い、地域・利用者のニーズにあった理念に作り変える事も検討していく。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎週月曜の業務開始前には施設理念の唱和を行い、ミーティング・申し送り時なども理念に触れ確認し合う様にしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	入居契約時に、入居者・家族に理念を説明している。又玄関ホールにも明示している。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩や買い物などに出た時など気軽に近所の方と挨拶を交わしたり、施設の畑で出来た野菜など、差し上げたりしている。		特に用事が無くても、気軽に来て頂ける様に交流を深める必要がある。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域のお祭り等は積極的に参加している。地元の幼稚園や日舞をされる方々がボランティアに来てくださる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の方達の見学の希望があれば、いつでも見て頂ける様にしている。又、社協に新聞の配布をし、ホームでの活動を知って頂く様、取り組んでいる。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を全員で取り組み、施設の良い所、悪い所を把握し、サービスの向上する為改善すべき事項等検討している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在の施設の状況等を報告し意見やアドバイスをして頂いている。		近隣のホームと合同で会議を開き、お互いを比べて問題点を挙げ、改善して行く事を検討中。
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	秋葉市長に慰問に来て頂いた以外は、市町とは連携・交流は図れていない。		今後は市町の報告・連携を担当窓口と図っていく。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	成年後見が必要な場合、管理者のみ対応し多くの職員は理解していない。		他職員も理解し対応出来る様、研修・勉強会に参加していく。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修を受けた職員は高齢者虐待防止関連法を理解しているが、多くの職員は理解できていない。ただ虐待防止・早期発見には注意を払い、努めている。		他職員も理解し対応出来る様、研修・勉強会に参加していく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	時間をとって家族等に分かり易い言葉で、丁寧に説明している。今後起こり得るリスク、その時の対応等は詳しく説明し同意を得る。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	日々、利用者の態度から、不平・不満を察する努力をし、利用者一人ひとりの希望に添える様、各ユニット毎に申し送り時・ケアカンファレンスを行う時など、話し合いを行っている。		利用者が、意見等を外部者へ表せる機会を設けていないので、機会をつくり、運営に反映させるようにしたい。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時には、暮らしぶりや健康観察、金銭管理について、家族に報告している。体調変化がある時は必ず家族の意向を確認している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ケアカンファレンスを行う前に、家族の意向やその他、不満や苦情について確認を取り、反映出来るよう心掛けている。外部者へ表す機会としては、外部評価によるアンケートを使用。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々、その日に挙がってきた、職員の意見や提案に耳を傾け、ミーティング時などには、議題として職員とともに検討し、運営に反映出来るよう心掛けている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	イベントや職員の急な休みの時など、対応出来る様、余裕を持って人材を確保しており、管理者も夜間、利用者の状況に対応出来る様待機している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>利用者、家族との信頼関係を築く為にも、馴染みの職員が対応することが大切と考えており、法人内の定期異動も無く、異動・離職がやむおえない場合も、引継ぎ面で努力している。</p>		
5 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>「認知症高齢者の理解とケアの実践研修」・「認知症介護実践者研修」に随時、交代で参加していく様計画している。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>他施設のイベントに参加し、当事業所のイベントにも招待したり、交流を図っており、他グループホームと地域運営推進会議を合同で行う計画をしている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>管理者が職員個々より、悩みや相談を受ける体制を取っている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>健康診断の実施など、職員の心身の健康を保つ為の対応をしている。又、職員がしたいと思う事は出来るだけその意向に沿う様に心掛けている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>サービス利用の相談があった場合、必ず本人に会って、心身の状態や気持ちなど確認し、安心してもらえる様な関係作りに努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談に来られた時は、今現在、家族が何に困り、事業所としてどう対応出来るか、時間を掛けて話し合いを行っている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時には本人、家族の状況を把握し、支援出来るかを検討し、出来ない様なら、地域のケアマネージャーと連携を図る。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	納得した上でのサービス利用が大切な事であるので、体験入居してもらい、普段の様子、雰囲気はどうか、考慮した上での入居が可能である。 この期間は、馴染める様家族に出来るだけ訪問してもらい安心して頂く様にしている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が全てを行うのではなく、利用者が出来る事（掃除・洗濯物干し・食器拭き等）を一緒に行ったり、昔の話を聞かせてもらうなど、学習させて頂いている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の様子等、家族に報告、相談し、職員と家族と協力して利用者を支えていく努力をしている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	疎遠になっている時には、利用者の様子を家族に報告したり、イベントがある時などは、お誘いするなど、関係が途絶えない様努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>故郷の近くにドライブに行ったり、兄弟の方の家へ顔を見に行ったことがある。</p>		<p>家族に相談をし、馴染みの人に来て頂いたり、故郷へ連れて行って頂く様お願いする。今後は、ふるさと訪問など考えて行きたい。</p>
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>個別に話しを聴いたり、相談に乗ったり、トラブルにならない様、気を配っている。レクリエーション時には極力参加して頂き、皆で楽しく過ごす場面作りをするなど、職員は利用者の調整役となって支援している。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>他の事業所へ移られた方の所へ、利用者と一緒に遊ぶお約束をしてあるが、まだ行けていない。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> </div>				
<p>1 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々かわりの中で、把握に努めており、自己決定や希望の表出が困難な方は、ご家族から面会時などに情報を得るようにして、本人の意志及び立場に立った支援に努めている。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>本人に話しをしたり、家族が面会に来られた時など、生活歴や趣味などを聴き、少しずつ把握に努めている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>利用者一人ひとりの生活リズムを知り、その日の行動、動作などから、本人の全体の把握に努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者には、日々のかかわりの中で意向を確認し、家族には面会時など思いや意見を聞き、介護計画に反映できる様、カンファレンスを開き、作成している。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ケアカンファレンス、モニタリングを行って、介護計画の期間に応じて、見直しを行っている。又、状態に変化があった場合は、随時見直しを行っている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人の記録は24時間随時記録している。職員の気づきや、状態変化などは詳細に記録し、職員間の情報共有を徹底している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、家族の状況に応じて、外出時送迎を行ったり、通院はほぼ施設の方で行っている。又、協力医のDrと夜間休日でも連絡体制を取っており、助言して頂ける様になっている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	社協を通じ、地域の行事の参加をし、ボランティアの方に送迎や介助の協力を得ている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	本人の希望や体調に応じて訪問利美容サービスや訪問マッサージを利用してもらっている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加され、地域や支援する為の情報交換を図っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人や家族が希望する病院を優先して受診している。特に指定が無い場合、等施設協力医療機関を利用して頂いている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	内科の協力医療機関の先生に指示や助言して頂いている。先生の方で対応出来ない時は、紹介状を頂いて診療内科を受診し、相談する体制を取っている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	内科の協力医療機関の先生が、月2回往診をして頂いており、利用者を良く知る看護職員に色々相談している。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者が入院した場合など、定期的に面会に行き、病院関係者や家族と連絡を取るなど、情報交換に努め、早期退院支援に結び付けている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>状態の変化があった場合、早い段階より、家族、かかりつけ医と話し合い、意向を確認しながら、対応方法を考慮している。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>本人や家族の意向を踏まえ、施設として状態変化が見られた場合、かかりつけ医に相談し、施設として対応出来るか、出来ないか検討し、家族に報告している。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>他の事業所に移られた場合、これまでの暮らしの継続性が損なわれない様、環境、ケア内容、注意点等、情報提供を確実にやっている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>否定的な言葉を使わない様心掛けるなど、利用者一人ひとりを尊重しそれぞれに合わせた対応を行っている。記録もスタッフルームで行い、鍵のかかる棚に保管している。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人がその人らしく生活できる様、分かりやすい言葉で説明し傾聴しているが、言葉での表現の乏しい方には、表情、態度、感情の変化で読み取り支援している。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者一人ひとりの状態を把握し確認しながら、一人ひとりに合わせたペースで過ごしてもらっている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	理美容師のホーム内の導入を行っている。又、外出しての雇美容院への利用希望にも支援を行っている。日々の服も希望を聞いて着てもらっている。		本人希望時に理美容が出来る様にしたい。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員も同じテーブルに着き利用者と食事を取っている。又、バイキング形式や出前を取るなど食事会を行い、好きなものを選んでもらっている。出来る方には、準備、片付けの一部を手伝ってもらっている。		その日の体調にもよるが、カップ洗い、お盆拭き等を手伝ってもらっている。準備は衛生面の問題もあり、職員が行うことでしばらく様子を見る。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲み物は本人が希望された時、好きなものを提供。おやつは、希望される方は買い物されたり、家族より差し入れがある。		お酒は、時、量を決めて楽しめるようにしたい。行き過ぎの嗜好にならない様対応をする。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導や声掛けを行う。失禁対応の声掛けもさりげなく支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴前にはバイタルチェックを行い、健康状態を確認し、本人の意志に基づいた誘導を心掛け、個別入浴で週3回は入浴されている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの状態、希望を尊重し休息してもらっている。又、体操を行ったり、寝具類の清潔を心掛け、安眠の環境作りを行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	洗濯干しや掃除など出来る事を役割として力を発揮してもらったり、談話の中で経験、生活歴を聞いて、得意な事、好きな事をケアの中に取り入れている。又、生活にメリハリをつける様、余暇活動を工夫している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物に行って、品物を見、自分で選ぶ喜びや、楽しみを味わってもらっている。又、支払いも自分でされている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	一人ひとりの体調や気候に留意し、天気の良い時には、出来るだけ本人の意向に沿って散歩や、近くのスーパーに買い物に行ったりしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	家族と外出や買い物に出かけられたり、年1回家族交流会で外出したり、時には施設見学をし、外出先での外食を楽しんでもらうなど支援している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	公衆電話を設置し、自由に電話が出来る様配慮している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも面会は自由に出来、ゆっくり話が出来る様に居室でくつろいで頂いている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	介護保険法指定基準を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	2階ユニット入り口のドアの鍵は日中開放しているが、やむを得ず掛ける時は、その理由を家族に説明している。		利用者の目に付く所での鍵を掛ける行為は、利用者の心を傷つける事であり、工夫を要す。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常にフロアーに職員がおり、見守りを行っている。又、職員どうし声掛けを行い、利用者の所在、様子を把握している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの状態を考慮して危険物品は管理している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ミーティングにて一人ひとりの状態を把握し、事故防止に取り組んでいる。又、ヒヤリハット報告書を作成し、職員の共有意識を図っている。		火災訓練等定期的に取り組んで生きたい。
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	緊急対応マニュアルを作成しているが、応急手当等訓練を行っていない。		定期的に応急手当の訓練を行っていく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	地元の消防署、交番へ当ホームの説明や何かあった時の協力依頼をお願いしている。しかし、本年度避難訓練など実施出来ていない。		他事業所の消防訓練に参加、協力を行う予定。今後、防火管理講習を受講し、設備の点検、避難訓練を定期的に行って行きたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	家族へ利用者の日々の様子等報告し、サービス計画書等でも説明を行い理解と協力を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝のバイタルチェックを行い。又、体調や些細な表情の変化も見逃さない様、早期発見に取り組み、変化があればすぐ管理者に報告するとともに、職員間で情報を共有し対応に当たっている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師の指示書は介護記録に綴じて、職員は指示通り服薬支援を行い、常に症状の変化の伝達の連携を密にしている。		引き続き、完璧な伝達をし、個々の職員が変更時の情報を把握する様努力する。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	毎朝朝食にヨーグルトを食べてもらっている。便秘しがちな方には、個々に排便状況をチェックし牛乳等飲用してもらっている。体操、腹部マッサージ、散歩もしてもらっている。		服用による便秘予防をなくし、運動や飲食物の工夫で予防につなげたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後のうがいや歯磨きの支援、助言はその都度行い、一人ひとりに合った口腔ケアをしている。就寝前に義歯洗浄剤を使っての洗浄を行っている。		定期的に口腔検査を行う。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できる よう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量のチェックを行い、日々の観察記録 を行っている。水分補給もこまめに行い、声掛 けするなど支援している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	必要な消毒薬等の設備機器があり、感染対策マ ニュアルに沿って日々職員が実行(次亜塩素酸、 ウェルパス)		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の 衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	冷蔵庫内の賞味期限をこまめにチェックし、調 理用具も除菌、洗浄を徹底して行っている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出 入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関のプランターには季節の花を植えて、家族 や面会者が入りやすい雰囲気作りを心掛けてい る。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等) は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や 季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	整理整頓し利用者の活動の写真や作品を展示 し、楽しめる空間作りの工夫をしている。		現在異食行為のある利用者が折られるため 控えているが、季節感が出せる様飾り等工 夫を行っていく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにはソファやマッサージチェアを設置し独りで過ごされたり、ゆっくりと話が出来る様な空間作りをしている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使いなれた家具や、昔の写真、馴染みのある装飾品を持ち込まれ、一人ひとりが安心してつづげる居室にしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	居室には24時間換気設備を設置しており、一人ひとりの状態や反応を見ながら、こまめに温度調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下、トイレ、浴室に手すりを設置し、浴槽内は滑り止めマットを使用している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレに目印を付け、浴室の出入り口にはのれんを掛け、居室は表札を付けている。又、声掛け、説明を随時行っている。		
87	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダではプランターでの野菜作り、季節の花を植え季節感を味わってもらっている。		屋上にも花、野菜を植えるベース作りを行っている。